

タイトル	船岡先生を送る言葉
著者	追塩, 千尋; OISHIO, Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(62): 13-14
発行日	2017-03-31

船岡先生を送る言葉

追 塩 千 尋

個人的にも常日頃からお世話頂いていた船岡先生が、この3月で退任されますことは非常に残念に思います。日本文化学科を代表して一言送別の辞を述べさせていただきます。

先生は明治大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学後、放送大学・明治大学・聖心女子大学などの非常勤講師を経て、1993年4月に創設された北海学園大学人文学部（日本文化学科）に教授として着任されました。当時は教養部と専門課程が分かれていたこともあり、学生が専門の授業を学び始めるまでの2年間ほどは授業が無かったそうで、うらやましい時代でした。

私と船岡先生とは、鎌倉仏教研究会・院政期仏教研究会などを通じて1980年代前後から個人的に面識はありました。業績があるにもかかわらず中々ポストに恵まれないと思っていましたが、まだポストに就いていない後輩からは「希望の星」と呼ばれていたことをよく口にされていました。

ご専門は日本禅宗史（特にその成立史や思想史）で、主に中世から近世初期を対象とし、その成果は単著4冊をはじめ40編ほどの論文に結実しています。数多い業績中、主著ともいべき書が『日本禅宗の成立』（1987年、吉川弘文館）と思われます。そこでは、古代仏教における禅の伝統（禅師・禅侶・禅衆などの存在）に注目し、その伝統を踏まえて禅の専修化および禅宗の自立化が図られたこと、そして、奈良期の「行的」僧侶は、やがて学の担い手「学生」と行の担い手「堂衆」に分化し、「堂衆」の台頭とともに「学」から「行」が自立し、それに伴い「行」の分化も起こり念仏・禅・律などの宗派化の動きが現れる、という見通しを立てられました。禅は他の宗派に比してとかく別扱いされがちですが、鎌倉仏教の成立を見据えて

古代からの内的展開の中に禅を位置づけた研究として高く評価される書といえます。

2001年4月には人文学部長に就任され、3年間にわたりその重責を果たされました。学部長時代は花見の企画や、当時は6～7人いたEFLの先生方を自宅に招きパーティーを開くなど、学部内の人の和に意を注いだことが印象に残っています。先生の研究室は「喫茶船岡」とも呼ばれていたそうで、人文学部のみならず他学部の教員もよく出入りしていました。先生の大らかで温和人柄が人を魅了するのでしょう。ただ、先生を含め皆さんが多忙になるにつれ、そうしたサロンの集いは希薄になっていきました。

大らかかつ温和なお人柄はそのにこやかな表情によく表れており、学生がゼミを選択する際にはそうした要素が大きかったようです。学生に対しては別として、先生が怒った場面を見た人はほとんどいないのではないのでしょうか。私の赴任前ですが、新入生受け入れ人数をめぐって故N教授とかなり激しくやりあったことは御本人からはうかがっています。私が見聞きした事例を二つ挙げておきます。一緒に教務委員をしていた時ですが、事務と打ち合わせ中、他の教員の発言中に口を挟んだ職員を厳しく叱責したことや、教授会で決定した事項について教授会終了後に不満めいた意見を言った教員に対し、「そういうことは教授会場で言って欲しい」と、珍しく声を荒げて述べていたのが印象に残っています。

なお、先生は健康診断に対しては懐疑的で、職場の健康診断受診の義務付けが年々強まっている中でも結局最後まで受診されなかったようです。かといって人間ドックを受けているわけでもないようですので、今後健康管理には十分留意されることを望みます（特に喫煙には）。

船岡先生の退職により、学部創設期からの教員は極めて残り少なくなりました。学部の進むべき方向についてこれからもご相談やご教示をお願いしたいところでありますので、今後ともご指導・ご鞭撻をお願いいたします。